

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	経済史 (Economic History)					担当教員	王 子龍 (オウ シリュウ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2036-0-33-084	専門科目	選択	2単位	3年次	前期		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL
	2436-0-33-023	専門科目	選択	2単位	3年次	前期		

① 授業のねらい・概要						
本講義では、世界経済の歴史的な形成過程を理解することを目的とする。導入として前近代の交易ネットワークにも触れつつ、大航海時代以降の経済のつながりに注目し、産業革命、国家間競争、グローバル化の進展などを具体例を通して学ぶ。これにより、現代社会を歴史的な背景から考える基礎的な視点を養う。						
② ディプロマ・ポリシーとの関連						
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力						
③ 授業の進め方・指示事項						
講義形式を基本とし、スライド資料を用いて体系的に解説する。理解を深めるため、数回ワークシートを実施する。授業資料は主にスライドを配布し、必要に応じて補助資料を配付またはオンラインで共有する。						
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能						
特に必要な予備知識はないが、ミクロ経済学や日本経済論を履修していると理解が深まる。						
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。						
指定教科書は使用しない。授業ではスライド資料および配布資料を使用する。						
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。						
古田和子他（2024）『アジア経済史（上）』岩波書店。 古田和子他（2025）『アジア経済史（下）』岩波書店。 岡崎哲二（2016）『コアテキスト経済史（増補版）』新世社。						
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）						
経済史というと難しいイメージがあるかもしれないが、本講義では現代社会とのつながりを意識しながら分かりやすく解説する。歴史を知ることで、ニュースやビジネスの見方が広がることを期待している。						
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安						
(1) 近代以降の世界経済の流れを説明できる。 (2) 歴史的出来事と現代社会の関係を具体例を用いて説明できる。 (3) 歴史的視点を用いて現代経済の特徴を説明できる。						
⑨ ルーブリック						
評価基準		S	A	B	C	D
評価項目		到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1)	世界経済の理解	前近代以降の世界経済の展開を体系的に理解し、時代ごとの特徴や変化を自分の言葉で説明できる。	世界経済の主要な流れを理解し、時代の特徴を整理して説明できる。	世界経済の基本的な流れを説明できる。	世界経済の流れについて、主要な点を挙げて説明できる。	世界経済の基本的な流れを説明できない。
(2)	歴史と現代の関連理解	歴史的出来事と現代社会との関係を、具体例を用いて論理的に説明できる。	歴史と現代の関連を具体例を用いて説明できる。	歴史と現代の関連を説明できる。	歴史と現代の関連について、主要な点を挙げて説明できる。	歴史と現代の関連を説明できない。
(3)	歴史的視点から現代経済を読み解く力	歴史的視点を用いて現代経済の特徴を多面的に説明できる。	歴史的視点を踏まえて現代経済について説明できる。	現代経済について自分の考えを説明できる。	現代経済について、主要な点を挙げて説明できる。	現代経済について説明できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	50%		20%		30%		100%	
(1) 世界経済の理解	25%		5%		5%		35%	
(2) 歴史と現代の関連理解	15%		10%		5%		30%	
(3) 歴史的視点から現代経済を読み解く力	10%		5%		20%		35%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	レポートにはコメントを付して返却する。ワークシートについては授業内で適宜講評する。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	オリエンテーション／経済史の視点	講義の復習（経済史の基本的な視点と本講義の目的の整理）						120分
2	前近代から大航海時代への世界経済の形成	講義の復習（前近代の交易ネットワークと大航海時代の特徴の整理）						120分
3	商品からみる世界史	講義の復習（商品からみる世界史の事例理解）						120分
4	商業革命と資本主義の誕生	講義の復習（商業革命と資本主義成立の流れの整理）						120分
5	産業革命のインパクト	講義の復習（産業革命の要因と影響の整理）						150分
6	先進国イギリスの発展要因	講義の復習（イギリスの工業化と先進国化の要因理解）						120分
7	後発国のキャッチアップ	講義の復習（後発国のキャッチアップ過程の比較整理）						150分
8	帝国主義と世界経済	講義の復習（帝国主義と世界経済の関係整理）						120分
9	戦争と経済	講義の復習（戦争が経済に与えた影響の理解）						120分
10	世界恐慌と国家介入	講義の復習（世界恐慌と国家介入の関係整理）						120分
11	戦後経済と高度成長	講義の復習（戦後経済体制と高度成長の理解）						120分
12	資本主義と社会主義の比較	講義の復習（資本主義と社会主義の比較整理）						120分
13	グローバル化の進展	講義の復習（グローバル化の進展と課題の整理）						120分
14	中国の台頭と世界経済	講義の復習（中国経済の台頭と世界経済への影響理解）						120分
15	総括と現代的意義	講義の復習（本講義全体の振り返りと理解の整理）						180分
⑫ アクティブラーニングについて								
本講義では、知識の定着を目的としたアクティブラーニングを取り入れる。具体的には、講義内容の理解を深めるため、数回ワークシートを実施し、学習内容の整理や振り返りを行うことで知識の定着を図る。								

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性